

丸山湿原群保全の会会報

(第 175 号)

発行日：2022 年 (R4) 2 月 16 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



保全の会 HP・blog

寒い日が続きます。例年よりも寒いとか。「例年？」といえは…昨年 5 月に新平年値に変更されたばかり。1991～2020 年の 30 年間の平均値だそうです。(2021 年 5 月 19 日から) 旧平均気温 (1981～2010 年平均) より全国的に 0.1～0.5 度程度高くなっているそうです。

果たして「昨年の例年」ではどうだったのか？暖かさに慣れ切った生活に「寒い」と感じるのか？懐具合で「寒い」と感じるのか…電気代・燃料費の値上げもあるし。しかしいずれにせよ「寒い！」熱でも出たら大騒ぎの世の中、ご自愛ください。(オミクロンにはかかるかも?)

(今住 2 月 15 日作成)

定期活動★1 月 23 日 (日) 定期活動 湿原内刈り取り作業 「監督」お出まし！ 9 名で活動 今回は協働なし！ 集合場所 (駐車場) に行ってみると何やら「ニコニコ顔」が。誰？おー！「監督」さんやないかいな。久しぶりです。7 月 10 日以来。小学校 5 年生は約半年で随分成長。習い事やお母さんのご都合でなかなか来れなかったようです。時間があるときには来てくれる。素晴らしい！ボランティアの鏡です。無理なくできるときに。これからもよろしく願いいたします。



もう見分けがつかない監督 どの人？

おっとまだ何にもしてません。本日はいよいよ本丸、第 1 湿原の又マガヤ刈り。そろそろ気の早い「セトウチサンショウウオ」が産卵開始の時期か？しかし「寒い」。湿原表面も霜柱と氷で覆われています。オオミスゴケの上も沈まず歩けるほど。しかも天気は暗雲立ち込めてきました。雪か？雨か？急がないと。

今回は「監督」参加ということもあり、皆さんきびきびと作業を。面積も広く、十分な間隔をあけて刈り取っていきます。中心部の水位のある部分は基本刈り取らず。(イヌノハナヒゲ群集) 周辺部の又マガヤ・ススキが中心。(又マガヤ群集) 毎年言っていますが、又マガヤ類の根



凍りついた湿原

(株) は大きくなり、陸化が進んでいきます。水位のある部分にもちらほら。遷移が進んでいる証か？そこを気にしても仕方がないので「やるべきことをやる」のみ。刈り払い機が使えない人は手で。運び出しも。今回はとりあえず山積み。集めきれない所は次回に先延ばし。ほぼ 8 割方終了か？両生類卵塊数調査を実施するためのライン張りも次回に。そのころにはア



作業後の風景

カガエル類の産卵も始まっているはず。寒いので今年は遅いか？産卵後寒い日が続くとダメな場合も。

休憩はほとんど入れず。(各自とっています)空を見上げると何やら「ポツポツ」と。やはり雨です。監督に「続けますか？」と聞くと「続行！」と厳しい指示が…(大幅なフィクションですが)「ヨシッ！私たち頑張ります！」と周りから声が聞こえたかどうかは不明。次回は作業と基礎調査。お暇なら来てよね！



監督の檄が飛ぶ？



芯の赤いススキ…気づかんかった！

言いますが、このカビが別の微生物の増殖を抑えている可能性もあるそう。最初の抗生物質ペニシリンもアオカビから見つかった。私はテレビドラマで知っている。だれか培養して新薬を！誰もせんわな。失礼。諸説の中にはストレス説も。ストレスからアントシアニン(ポリフェノールの一種)が活性化すると。どんなストレスなんでしょうね。シカにもかじられてなかったようだし。真相は不明ですが、よく見ると結構あるようです。今までな～んにも気にしてなかった。前号のミズタマカビ(糞生菌)といい、見えないものを見ることは大切なのかも。「暗闇でしか見えぬものがある。暗闇でしか聞こえぬ歌がある。」と最近聞いたような？ちょっと違うか。

そうそう、積み上げたヌマガヤですが、実は小学校の環境学習で手伝ってもらったつもりで置いています。しかしこのご時世。実施できるかはこの日の暗雲のように先が見えません。一応3月4日(金)で調整中。ご承知ください。

この日の刈り取りで「不思議なものを見つけた」と会員から連絡。刈り取ったススキ(薄)の芯が赤い。私たちの知らないススキ？もしくは新種？調べてみるとどうやらカビがとりついたようです。(諸説あり)病気と言えば病気のようにですが、悪さをしているかは不明。とてもいい加減なことを



さらに気の早いセトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)

セトウチサンショウウオ卵囊 氷の下に産んでいてもおかしくない？と聞くと。「さすがにまだ…」産んでました。穴の水溜まりに。おそらく切り株が腐り抜けたあと。地下水位が高いので、溜まった水は微妙に流れながら枯れることはない。井戸の小型版。数年前には同じ場所でニホンアカガエルも産卵していました。しかし、なんと表面は氷で覆われているではありませんか。産卵が早すぎたのか、それとも熟慮の上の産卵かは不明。よく見ると2対あるようです。ということは少なくとも2匹はメスが来ていたことになります。白いのもあるので一部は未授精？分割が始まっているものもあり、今後どうなるか経過観察です。寒いからな～？

観察の後解散。数名は山へ。今年度も丹波市森林組合の間伐作業が入ります。その下見に。場所は第4湿原西側。配慮するようなことはないか確認に。長い間手が入っていない所なので相当暗くなっていました。特に配慮は必要なしと判断。次週から間伐作業開始。



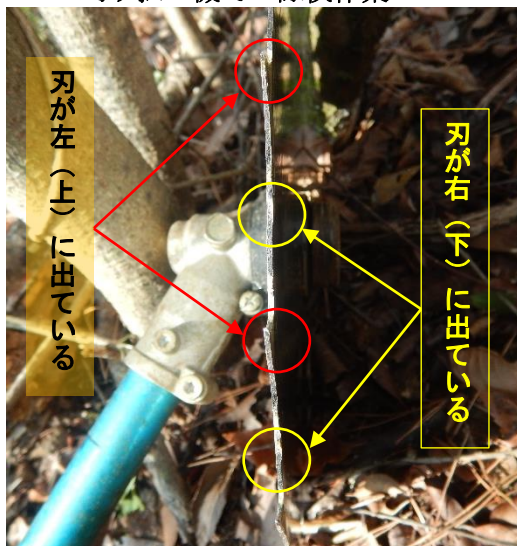
第4湿原上(西)山林 現状

丹波市森林組合による間伐★1月24日～2月4日頃 早い！丁寧！安い?? (知りません)

ここ数年、毎年お世話になっています。(阪神北県民局の発注) 毎日丹波市青垣から一般道を使って1時間以上かけて来られます。多い日で4～5名。少ない日は2名での作業。毎年仕上がりの美しさに関心します。しかし、この職種にも働き方改革がやってきたようで、作業範囲が少し縮小されました。**労働時間遵守**。現場にたどり着くまでの時間も考慮していくようです。時間が超えれば残業代がいる。よく聞く話ですが、この手の業種は勤務時間等大変アバウトだったようです。一昨年、日当を聞いてびっくりしたのを覚えています。「ウッドショック」のおかげもあるのか？賃金が少しでも上がることを願います。林業が林業として成り立ちますように。



刈り払い機での除伐作業



刃が左(上)に出ている

刃が右(下)に出ている

刈り払い機 笹刈刃に付けられたアサリ

現場にたどり着くまでの時間も考慮していくようです。時間が超えれば残業代がいる。よく聞く話ですが、この手の業種は勤務時間等大変アバウトだったようです。一昨年、日当を聞いてびっくりしたのを覚えています。「ウッドショック」のおかげもあるのか？賃金が少しでも上がることを願います。林業が林業として成り立ちますように。

作業は例年通り、刈り払い機で8cmぐらいまでの木本を伐り、枝を払って棚状に並べていきます。その後、太い木はチェーンソーで伐倒。メンバーもほぼ同じ。毎回見て聞いて学ばせてい



第4湿原

間伐作業後の風景 プロの仕事！

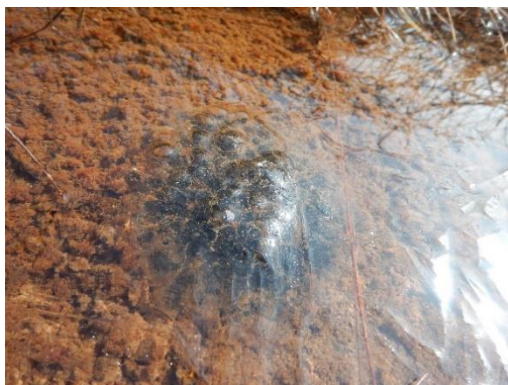
ただいていますが、いざ自分がとなるとなかなかうまくいかない。プロは違うものだと感じます。刈り払い機の刃は「ササ刃」。アサリをつけてのこぎり状に。(141号で紹介済み 2019年) これを使うのも勇気がない。キックバックきつそうですし…。今回はアサリの状態を写真で紹介します。かなりマニアック？(プロ仕様の情報です) アサリとは「鋸の歯を交互に左右に振り分けること。また、その広がり。鋸の歯が通る幅を広げて、おがくずが排出されやすくするためのもの」だそうで、漢字で書くと「歯振(あさり)」と書くそう。字のままですね。「ハブリ」でもいいようですが…語源についてはまたお調べください。最近チップソーでもアサリ付きが市販されています。チェーンソーの刃のようにチップを交互に並べています。危険のない程度にお試しを！

定期活動★2月12日(土) 基礎調査 湿原内刈り取り作業 9名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	35	54	入口	10:12	6.0℃		
ハイキング	25	62	第3湿原	10:35	【6℃】	36.2 μS/cm	7.3
散歩・登山	34	0	視点場	11:15	9.9℃	27.6 μS/cm	7.3
来場者数 210 計人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	11:10	【3.3℃】	29.4 μS/cm	7.3
			第2湿原	10:50	【2.7℃】	33.9 μS/cm	7.2

セミナー・両生類卵塊数調査前の又マガヤ刈り取り作業とセンサスライン張りです。朝の冷え込みは結構強かったものの風もなくポカポカ陽気。気持ちの良い天気になりました。

ただ雨が少なく、両生類の産卵はなかなか増えないよう。アカガエル類の卵塊が新たに1塊見つ



アカガエル類の卵塊 氷の下



前回のサンショウウオ卵塊 死んでる？

かっただけです。しかも今回も氷の下。雨の降った翌日に産卵が多いのは感覚的にわかっていますが、研究論文などを見ると「気圧低下」の方が重要だとか。産卵行動についても産卵前の水温・気温の上昇が精子や卵子を成熟させる要因とも。前回の活動時に発見したセトウチサンショウウオの卵囊。この水溜まり(穴=井戸状)の水温は他より高かったのか？それで早い産卵になったのでしょうか？今回観察すると、残念ながら卵囊はほとんど白くなっていました。寒さ？もしくは酸欠？で死んでしまったのか。今回も氷漬け。さてこれからどうなるのやら。自然の問題でどうすることもできないのですが、少しでも多くのアカガエル類・セトウチサンショウウオを残したい。今の保全方法は本当に正しいのか、毎回気持ち揺らぎます。

迷いはありますが、又マガヤの刈り取りは湿原自体の

保持には絶対必要。湿原が消えてしまえば元も子もない。今回も作業は続きます。ただし、かなりアバウトに。残すところもあり。今年や来年の産卵にどう影響が出るか見ていきます。「生物多様性」の微妙なバランス



センサスライン設置中 位置は？

に毎年悩みます。刈り取りと同時進行で基礎調査、さらにセンサスラインの設置。ライン基準の杭が古くなっていて、位置の確認にかなり苦労しました。またラインも長さが足りない？また近いうちに微調整したいと思います。

セミナー・調査★2月27日(日)

両生類セミナー・両生類卵塊数調査

コロナで心配していましたが、どうやら問題なく実施できそうです。「宝塚西谷の森公園」多目的室。コロナ対策ガイドラインをしっかりと守って実施します。申し込みについては1ページ目の電話・SMS・メールでも受け付けることにしました。ぜひお申し込みください。午前は「オオサンショウウオ保全と湿原保全の繋がり」をテーマに講演。現在広島の田口さんと情報共有して内容を詰めています。聞いて損なし！他の活動団体の皆様もぜひお越しください。お悩み相談もできるかも？まだ空いてます！午後は春の日差しが微笑みだした湿原散策が待っている？もちろん午前の田口さん



申込みページ

会場 40名限定
状況によりさらに人数制限あり

無料
(日本オオサンショウウオの会)

講師 田口 勇輝の
博士 (会員)

講演テーマ
**オオサンショウウオの
保全活動から考える湿原保全**
(各自風食の後、湿原に移動)

令和4年2月27日(日)
①午前の部 10時30分～12時
②午後の部 13時頃～15時頃まで

丸山湿原両生類卵塊数調査

お問い合わせ
西谷地区まちづくり協議会事務局内
連絡先 090・1895・8061 (今住)
E-mail: maruyamashitugengun@gmail.com

丸山湿原セミナー
両生類卵塊数調査

ど真ん中
再掲

午後2部に参加の方は(片方だけ参加可)
丸山湿原駐車場集合 マスク・飲み物・筆記用具
(雨具) 長靴が必要

コロナ対策ガイドライン順守

※丸山湿原群にオオサンショウウオは生息していません

丸山湿原群保全の会(実施団体)

丸山湿原エコミュニティ(主催)

兵庫東部北東市民局・宝塚市(共催)

環城市宝塚推進市民会議(後援)

対面実施・会場閉鎖の場合ZOOM

さんのお話だけでも、午後の丸山湿原のみの参加でもOKです。ぜひ！

次回活動日 2月27日(日) セミナーと調査 3月12日(土) 27日(日) 4月9日(土)